

ADDRESS関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

ADDRESS関数の「役割」とは？

ADDRESS関数の「役割」とは？

ADDRESS関数は、「行番号」と「列番号」を指定して、そのセルの「番地（アドレス）」を文字列として返す関数です。あくまで「場所（住所）」を返すだけで、セルの「中身（値）」までは取ってこない点に注意が必要です。

=ADDRESS(行番号, 列番号, [参照の型], [参照形式], [シート名])

引数	内容	設定例
① 行番号	上から何行目か	1
② 列番号	左から何列目か	3（※C列のこと）
③ [参照の型]	絶対参照か相対参照かを指定	4（※次のスライド参照）
④ [表記形式]	基本省略（規定値1=A1形式）	省略
⑤ [シート名]	別シートを参照する場合に指定	"集計シート"

結果例: =ADDRESS(1, 3, 4) → "C1" という文字が返る。

【保存版】 第3引数「参照の型」 早見表

【保存版】第3引数「参照の型」早見表

ADDRESS関数で最も迷うのが、「\$マーク」をつけるかどうかを決める「参照の型」の番号です。実務では「1（完全固定）」か「4（完全フリー）」のどちらかをよく使います。

指定する番号	参照の種類	結果の見た目（行1, 列1の場合）
1（省略時）	絶対参照	\$A\$1
2	行：絶対 / 列：相対	A\$1
3	行：相対 / 列：絶対	\$A1
4	相対参照	A1

 **ポイント** : ADDRESS関数の結果を INDIRECT関数に渡す目的であれば、どの形式でも機能しますが、見た目がスッキリする 4 (相対参照) が好まれることもあります。

最強の相棒「INDIRECT関数」と合体

最強の相棒「INDIRECT関数」と合体

ADDRESS関数で作った「番地（文字列）」は、そのままでは計算に使えません。INDIRECT関数の中に入れることで、初めてセル参照に変換し、「その番地にあるデータ」を取り出すことができます。

シナリオ：A1セルに「行番号(3)」、B1セルに「列番号(2)」が入力されている。
その座標（B3セル）にあるデータを取り出したい。

ステップ1：ADDRESSで番地を作る `=ADDRESS(A1, B1)`

→ 結果："`$B$3`"（文字列）

ステップ2：INDIRECTでデータ化する `=INDIRECT(ADDRESS(A1, B1))`

→ 結果：B3セルに入力されている値が表示される！

【実践】MATCH関数で行・列を特定する

【実践】MATCH関数で行・列を特定する

実務では、行番号・列番号を「手入力」することは稀です。MATCH関数を使って、「特定のキーワードが何行目（何列目）にあるか」を自動で探し、それをADDRESS関数に渡します。

シナリオ：「最大値」が入っているセルの「番地」を知りたい。

数式： `=ADDRESS(MATCH(MAX(A:A), A:A, 0), 1)`

解説：

1. `MAX(A:A)` で、A列全体から最大値を探す。
2. `MATCH(..., A:A, 0)` で、その最大値が「何行目」にあるか検索し、その座標をADDRESS関数に渡す。（例: 12）
3. `ADDRESS(..., 1)` で、その座標からセルの番地を文字列として表示する。（例: "\$A\$12"）

→ これで「最大値がどこにあるか」を特定できます。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。